

東日本大震災で消滅した 松島湾の藻場再生活動

〒984-0051
宮城県仙台市若林区新寺
1丁目5-26-104
電話:022-293-2281
E-mail:e-tec@world.ocn.ne.jp
http://www.e-tec.server-shared.com/



復興支援助成
3年目
調査研究



アマモ植栽のための準備作業

アマモ場造成活動	600株
松島湾清掃・地引網	150人
今年度計画の達成度	100%
活動の全体目標に対する達成度	95%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

海域における藻場の造成は他で行われた活動のとおりに進まず、結果が残せない状態が続きました。また、濁りの発生など効果が多く発生しました。

■ 工夫した点

アマモの植栽、活着においては試行錯誤の上、一つの手法を開発しましたが、これには多数の意見の集約の他、これまでの活動で失敗した事例などがとても役に立ちました。

課題

東日本大震災と発生した大津波により松島湾のアマモ場は99%が失われました。本活動ではアマモの生育環境特性を明らかにし、速やかにアマモ場の回復を目指します。

目標

松島湾を生活の場としている漁業者に生態系の基盤である藻場の重要性をご理解いただくこと。藻場の回復により、豊かな恵みを得ることができ、さらに活動が活発になること。

活動内容と成果

これまでの活動によって、松島湾の底質には泥分が多く、かつ強い流れの発生があり、アマモの活着は思うようにできませんでした。しかし、試行錯誤の末に開発した植栽方法を用いて、今年度も植栽面積を拡大できました。植栽後はモニタリング調査によって経過観察を続けています。

なお、植栽方法の開発には地元の漁業者だけでなく、水族館関係者、有識者など数多くの意見を頂き完成させることができました。活着できる確実な方法である一方、藻場面積の回復にはあまりに小規模であり、さらなる工夫や展開方法の検討が求められます。



高校生と行った流れ藻の回収と浮島への投入

全助成期間の活動を振り返って

アウトプットに関しては途中経過において満足はいかない点がありましたが、言い換えると課題を明確化することができ、具体的な対処法を関係者間で検討することができました。不十分と感じられたアウトプットに対して様々な工夫や追加インプットを行うことで、成果を残すことができました。最も大きな成果は、本活動により協力者を多く獲得し、行政や他団体との交流が生まれ、活動の範囲を大きく広げることができたことです。



工夫した植栽方法により活着したアマモ

今後の展望

活動の継続により藻場の規模を大きくできる見込みですが、その後の植物の有効利用について現在検討中です。採取した植物を『新エネルギー』原料とすること、藻場はブルーカーボンとして『カーボンオフセット』の対象とすること、『生物多様性』の保全に役立てることは、当NPOの基本方針に完全に一致しています。これらを実現することで、持続利用可能な社地域会形成の大きな1歩を踏み出すことができると考えています。